

学界動向

日本財政学会第二十二回大会

日本財政学会では昭和四十年十月二十二日、二十三日の両日に亙り甲南大学において第二十二回大会が開催され過半数の会員が出席し貴重なる研究報告と之に対する真摯熱烈なる討論が展開された。本学からは十月二十二日には箕浦教授が出席した。十月二十三日には加藤教授が出席し別記の論題による研究報告を行なった。この大会における研究報告は次の通りである。

- 一、給与所得課税の累進度 小樽商科大学 早見 弘
- 二、個別的租税利益説と全般的租税利益説
香川大学 山崎 恰
- 三、所得税の短所を論ず 早稲田大学 松下周太郎
- 四、現代資本主義と公債
東京都立工業短期大学 秋山 稜
- 五、公債発行の問題について——不況対策として——
熊本大学 米原七之助

六、公債の負担に関する近年の論争

東洋紡績経済研究所 安居 洋

七、戦後日本の所得課税について

立命館大学 加藤 睦夫

八、現代日本財政の側面——対韓援助の現段階と

その本質—— 仏教大学 中瀬 寿一

九、戦後日本の財政の政策——一つの評価——

学習院大学 貝塚 啓明

十、地方財政構造の諸問題 地方財務協会 荻田 保

十一、国と地方自治体の財政関係に関する若干の考察

鹿児島大学 岩元 和秋

十二、地域開発と財政政策 東京女子大学 伊藤 善市

研究報告の各別の内容の紹介については都合により省略するも十月二十二日予定された研究報告並びに討論終了後井藤半弥氏の特別講演があり日本財政学会の回顧と題されて過去二十二年の学会の歩みについて詳細なる報告があり、最後に古典研究の必要を強調され他人の研究を尊重せよと結ばれたのであるが感銘を興えられるところであった。（箕浦格良）